Japan Evangelifiel All Association

JELANEWS

ジェラニュース 第22号 201分年8月 発行責任者 森川博己

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1521 www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

<u>難民支援/アジア</u>子ども支援/ブラジル子ども支援/ボランティア派遣/リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座/奨学金制度/宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちは、わたしが飢えているときに食べさせ、のどか乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてれたからだ、はっきり言っておく、私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節~36節、40節



5月14日から6月6日にかけて、全国九つの日本福音ルーテル教り感謝申し上げます。寄付金につきましては、二つのルー会(博多、松山、甲府、三鷹、神戸、静岡、栄光、田園調布、聖学R関連社会福祉団体「スモールワン」(東海教区)と「一粒ロ)で「第7回世界の子ども支援チャリティコンサート」を開催め表」(西教区)、そして日本福音ルーテル教会の連帯献金した。9会場の来場者総数は753名、寄付金総額は761,921日子どもの支援に関わるもの)およびJELAのアジアとブラジルのぼりました。会場をご提供いただいた教会の皆さま、ご来場子ども支援プログラム等に利用させていただきます。ありがださり寄付金を捧げてくださった皆様、そして協賛団体の皆様心でごいました。

[この号にはこんな記事が] チャリティコンサート特集(森川博己+アンケートより+演奏者から) ……2~5 ひろがるリラ・プレガリアの働き(矢野和江+横山恭子+公開講座の案内) ……6~7 JELA歴史コラム8(長尾博吉)……8 お知らせ(インドワークキャンプ参加者募集など)……8

) (1



世界の子ども支援 チャリティコンサート特集

JELAの「世界の子ども支援チャリティコンサート」も、回を重ねること7回となり、今年は初めてフルート演奏を中心にお届けいたしました。演奏はもとよりお話も興味深く、演奏者と聴衆の一体感が強く感じられるコンサートとの評価もいただいたシリーズでした。JELAスタッフ、聴衆、演奏者のそれぞれの立場からの感想によって、今回の催しがいかに素晴らしいものであったか、おわかりになることでしょう。来年のコンサートも今回以上の感動をお届けできるよう準備をしておりますので、どうぞご期待下さい。

コンサートに同行して

JELA事務局長·森川博己

♪ はじめに

「もっと多くの人に声をかければよかった!」という言葉を、コンサート終了後にどこの会場でも耳にしました。嬉しいような残念なような複雑な気持ちです。満足していただけたことを喜ぶ一方で、もっと大勢の来場者が与えられていたかもしれな

いと感じるからです。今後も選りすぐりの 演奏者と内容でこのコンサートを続けて まいりますので、会場になってくださる教 会や近辺の教会の皆様は、こぞってご来 場ください。そして、お知り合いの方、音楽 好きな方、教会を離れていらっしゃる方等 を積極的にお誘いいただけると、大変あり がたく存じます。

循環呼吸?

さて、今回のコンサート、ビゼーの「アルルの女」より"メヌエット"で幕を開けました。フルート曲の定番らしく、耳になじんだメロディが心地よい、冒頭を飾るにふさわしい選曲です。プログラムはその後、ロシア、ドイツ、韓国、日本、アルゼンチン、ブラジル……の曲が続き、音楽による世界巡りという構成になっていました。ところどころに挟まれる、上野由恵さん(フルーティスト。2007年第76回日本音楽コンクール第一位などコンクール優勝歴多数。読売日響、チェコフィル室内管等、著名楽団との共演歴多数)の明るくユーモアあふれる曲目解説、フルートにまつわる話も興味深いものでした。

体格の大きい欧米のフルート奏者は肺活量も大きく、日本の小柄な奏者はかないません。そこで「循環呼吸」という奏法が生み出されます。口から息を吐いて音を奏でる一方で、鼻から少しずつ息を吸って長いフレーズを吹きこなす手法です。それを実際に示すために、息継ぎなし(のように見える形)でフルートを長時間吹き続ける上野さんの妙技に、会場からは大きな拍手と笑いが起こりました。演奏者としては、ここでの受け具合によって以降のプログラムへの姿勢に多少変化が見られるようです。笑いが期待されている場面では遠慮な



この「循環呼吸」、修得に上野さんは2年かかったそうなので、見た目以上に難しい技術なのでしょう。水泳に応用すると、カナヅチの私でも千メートルは大丈夫?と想像を膨らませている間に、プログラムはリムスキー=コルサコフの「熊蜂の飛行」に移っておりました。子どもための名曲集等でよく耳にする曲ですが、これがまさに「循環呼吸」を用いた演奏。心憎い演出、曲の配列ですね。

b フルート王国·日本

フルートの説明でおもしろかったのは、その材料に関するものです。通常は銀のフルートを思い描くものですが、今では金、セラミック、プラチナ、ガラスといった、様々なものが使用されています。選択の基準は音色に関する好みだそうで、上野さんの愛器は18金の日本製。深みのある音色に加えて輝きのある音がお気に入りとのことです。

われがちですが、フルートに関しては日本がいま世界一のシェアを誇っているという事実も初めて知りました。「ムラマツフルート」という世界に冠たるブランドが日本に存在し、今年はその生みの親・村松孝一氏の没後50周年だそうです。 それを記念して、隔月刊のフルート専門誌「ザ・フルート(THE FLUTE)」で上野さんが聞き手となり、村松氏になじみ

西洋の楽器の製造は欧米が本場と思

それを記念して、隔月刊のフルート専門誌「ザ・フルート(THE FLUTE)」で上野さんが聞き手となり、村松氏になじみの深い人に次々にインタビューする特集が組まれています。初回の原稿を見せていただきましたが、村松氏がフルート製作にかけた情熱たるやただものではなく、フルートについて何の知識もないところから出発して千時間(!)かけて最初の作品を完成させたことや、物まねを一切せず、より良い物を産み出そうと自分なりに努力を積み重ねた結果、西洋で昔から培われてきた工法・工程にたどり着いたとありました。

どんな分野にも魅力的な人物はいるものですね。伝記があるなら読んでみたい。 楽器専門店等で『ザ・フルート』に遭遇されたら、ぜひ手にとってインタビュー記事を探してみてください。

♪ フルートで尺八

コンサート前半はバッハの「G線上の アリア」で幕を閉じました。後半は調性の ない現代曲からスタートです。韓国のイ サン・ユンという人が作ったエチュード5 番(フルート独奏)。



イサン・ユンは、第二次世界大戦中に 日本やドイツで作曲の勉強に打ち込んで いたときにスパイ容疑をかけられ、何度 も投獄されるという不遇の人生を送った 人です。その人生を反映するかのように 曲の流れは重苦しく張りつめたものでし た。韓国の伝統音楽の奏法や日本の尺 八を模した音色も随所に取り入れられて いて、人間の呻き声が聞こえてくるような 曲。音の合間の沈黙の時間が音楽全体 の緊張感を高めるのに役立っていて、



音楽の総合プロデュース

緊張と弛緩の相乗効果が考慮されての ことでしょう。イサン・ユンの後はがらりと 趣向を変え、ゆったりと伸びやかな日本の 曲「浜辺の歌」がとり上げられました。こ こでステージ衣装の話を一つ。ピアノの圓 井(つむらい)晶子さんが終始シックな黒 の衣装で通されたのと対照的に、フルート の上野さんは、前半はピンク、後半はブ ルーという華やかなドレスでの登場でし た。後半に演奏する二つの日本の曲がど ちらも海にちなんだものだから、どうしても ブルーの衣装に着替えたかったとの説明 を聞いた時、曲目や演奏のみならず、衣装 の色合いまでも意識した音楽の総合プロ デュース感覚に感心しましたし、このチャ リティコンサートで司会を務めることの多 い私にも勉強になりました。と言っても、演 奏者以上に目立つのは慎むべきでしょう から、今後もタキシードなどには手を出さ ずに、あくまでも地味な格好で司会にいそ しもうと思います。

b フルート水没事故

プログラム終盤は南米の曲が2曲控えます。多くのクラシック音楽家を魅了してやまないピアソラの作品から「タンゴの歴史」の中の一曲と、映画『黒いオルフェ』のテーマ曲。ピアソラの曲ではピアノ伴奏の圓井さんが鍵盤以外の部分をたたいて太鼓のような音を出すという、おもしろい趣向も披露されました。

最後はモンティ作「チャルダッシュ」。フィナーレにふさわしい華やかな演目です。数年前にフィギアスケートの浅田真央選手がフリーの演技で用いてブレイクしたとのことですが、私はお二人の演奏を聞きながら、以前にこのコンサートシリーズでお世話になったテッパー親子が、ピ

アノとヴァイオリンで同じ曲を演奏してい たのを思い出していました。

難易度の高い曲との印象が強く、その 時はヴァイオリンが音をはずさないかとヒ ヤヒヤしておりましたが、今回のフルート の上野さんは楽々と演奏されていて、聴 いていて爽快ですらありました。ある会場 でこの曲の演奏中に一か所、音がはずれ る「事件」がありました。私が付き合った5 会場のすべてのプログラムの中で、音程 がおかしくなったのはこの一回だけです が、指で押さえて音程を調整する穴の一 つから、たまった水分が落ちてきたため のトラブルらしく、業界用語で「水没事 故」と呼ぶそうです。フィギアスケートでス ケートが氷に引っかかってジャンプを失 敗するよりもずっと珍しいケースのようで すので、遭遇した会場の皆さんはラッ キーだったかもしれません。

♪ 音楽による一体感

アンコールはどこの会場でも数曲演奏されました。私が耳にしたのは、日本の唱歌「この道」、そして2曲の讃美歌。「慈しみ深き友なるイエスは〜」で始まるものと、シベリウスの「フィンランディア」のメロディを主題にしたもの。どちらもなじみの曲です。

会場によっては演奏にあわせて来場者が合唱したところもあったようですが、私が同行した所ではいずれも演奏のみ。ルーテル神戸教会では小さくふるえるように、「い~つくしみふか~き、と~もなるイエスは~」のメロディを聴衆の方々が静かに、本当に静かにハミングする場面がありました。胸に迫るものがあり、自分もハミングに加わったところ、友にいてくださるイエスを感じて涙があふれてきました。音楽による一体感を味わえた幸福なひとときでした。

5月14日(金) 博多教会

CDありますか

こうして今回のコンサートは幕を閉じました。途中のスライド上映(*最後の2会場は特別の事情が発生し、スライドを用いずに司会の私が短く話をしました)と献金の時間も従来はその年の演奏者にライブ演奏をお願いしていたのですが、今回は上野さんの着替え時間を確保する必要から、CD演奏を一曲使いました。シューベルトの「アルペジオーネ・ソナタ」から"アダージョ"です。これは通常、チェロとピアノで奏されるのですが、CDはチェロ部分を上野さんのフルートで置き換えたものを用いました。

コンサート終了後にCDを購入したいという方がいらしたのですが、残念ながらこれは市販されておらず、上野さんが独自に録音してお持ちのものでした。お二人の讃美歌演奏のCDがほしいという方もいらっしゃいました。将来、CDをお出しになったときには、この紙面上でご紹介しますので、期待してお待ちください。



り 世界最高のフルートは誰が持つべきか 最後にコンサートの目的に関する話で す。4月からNHK教育テレビで「ハーバー ド白熱教室」という番組が毎週放映され ました。これまでに1万4千人近くの学生 が受講したというハーバード大学で最も 人気の高い講義、マイケル・サンデル教 授(政治哲学)の「正義とは何か」を十数 回に分けて紹介したものです。5月放映分 では「世界で最高のフルートは誰の手に 渡るべきか」という、分配の正義・公平の 問題を取り上げていました。

一番お金をたくさん払う人が買えばいいのか、音楽の有名な博物館が所蔵すべきか、あるいはクジ引きで決めるのはどうか、といろいろな考えを示した後、古代の哲学者アリストテレスの立場である、「世界最高のフルート奏者が持つべきだ」という目的論的思考が紹介されます。

アリストテレスは、物はそれが作られた、あるいは存在する目的から分配先が決められるべきだと考えるのです。フルー



トは飾るためではなく、また、誰が持ってとピアノで奏されるのですが、CDは もよいというものでもなく、きれいな音を出すたものを用いました。 ロンサート終了後にCDを購入したい は飾るためではなく、また、誰が持ってもよいというものでもなく、きれいな音を出すために作られたのであるから、最高のフルートは最高の音を出せる者が手にすべきだということになります。人間の直いう方がいらしたのですが、残念ながら 感にあう説明です。

この話を聞きながら、「お金」の目的は何だろう、と私は考えました。将来に備えて貯蓄もしますが、最終的な目的はそれを用いて何かを得ることでしょう。iPadがほしいから買う、子どもの学費に使う等、普通は自分や家族のために使います。そして、自分と家族は満足を得ます。

しかし、それを困っている人のために 使うのはどうでしょう。日本にも世界にも、 自分の責任でないのに貧困や困難に苦 しむ人々が大勢います。貧しくて十分な 食事ができない、学校に行けない等、 様々な問題と闘わなければならないので す。私たちがそのような立場に生まれてい てもおかしくないわけですから、他人事と は言えません。そういった人々を助けるた めにお金を用いる、つまり寄付すること は、お金の最高の使い方ではないでしょ うか。なぜなら、捧げる自分も嬉しい、そ れによって支援を受ける人も嬉しい、そし て、何よりも私たち人間を創造し、すべて



の人間に愛を注ごうとされている神様が 喜ばれるという、三重の祝福があるから です。JELAが日本福音ルーテル教会と 毎年実施しているこのチャリティコンサートを、このような観点からとらえてくださ り、音楽を楽しみつつ、愛のこもった寄付 金をご提供いただけるなら、ただただ感 謝です。(♪)

アンケートよい

会場のひとつ、日本福音ルーテル神戸教 会から感想をたくさんいただきました。当日 はご近所の方々が多数お見えで、後日、そ れらの方々が教会員の方と会うたびに、お 礼の言葉を述べられたとのことです。

- ○演奏そのものが本当に素晴らしかった。
- ○心洗われる思いだった。
- ○別世界にいるような一時を過ごせた。
- ○自宅に帰っても、感動の余韻がとても 長く続いた。
- ○フルートの生の演奏はそうそう聴ける機 会はないので、貴重で素敵な体験だった。
- 会はないので、

 「真里で素剛な仲駷たった。

 ○フルートもさることながら、ピアノの演奏



も素晴らしく、ソロをもっと聴きたかった。 ○あの古いピアノでも(←古い教会員さん曰く)あんなに良い音が出るなんて! ○教会でこんなにハイクォリティーの海

○教会でこんなにハイクォリティーの演奏が聴けるなんて!

○トークがとても短くて、しかも魅力的でインパクトがあってよかった。

○説明は分かりやすいし、興味深かった。

○トークが演奏者ご本人によるものだっ たのがとてもよかった。

○トークに垣間見える、演奏者のお人柄 の素敵さがよく伝わった。

○演奏に加えて、プログラムの構成も素晴らしく、あっという間に終わってしまった感じだ。

○こどもに対して「ご遠慮ください」では ない雰囲気に、演奏者の大らかさが感じ られるし、素晴らしいことだと思う。

○美しいお衣装姿は、より、「正式なコンサート」という感覚を持たせてもらえて、とてもよかった。



○「衣装替え」は演奏者の方の側からの 聴衆への誠意(本物の演奏をお届けしま す、という熱意)のように感じられ、有り難 く、また、嬉しかった。

○アンコールのときの演奏者・聴衆の一体感に表現できないほど感動した。

○演奏者の方々も、喜んでくださっている ことが見えて、聴衆の側からすると、とて も光栄なことだし、嬉しかった。

○来られた方全員が大満足のコンサートだった。

○来年も是非同じメンバーでしてほしい。 ○以前はよくコンサートホールへ出向いて聴きに行ったものだが、年をとって最近はほとんど出かけなくなった。身近な教会という所で本格的なコンサートを味わえることは本当にありがたい。(ご高齢の方々より)

その他、演奏そのものに対する感動と感謝 は枚挙にいとまがなく、とくに、アンコール の「いつくしみ深き」に対する感動は、こと さら大きい反響でした、とのことです。(♪)

演奏者から

<上野由恵さん(フルート)より>

「音楽家として世の中に貢献できることはないか」ということを深く考え始めた矢 先……、驚きのタイミングで今回のチャリティーコンサート・ツアーのお話をいただきました。全国を回るという大きなプロジェクトに対する不安もありましたが、各教会の皆さまが私たちをあたたかく迎えてくださり、最善のサポートを施してくださいましたおかげで、全公演を無事に終えることができました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、コンサートの中で、客席のほとんどの方々が目を真っ赤にして涙を流してくださっていて、私もその光景を前に胸が苦しくなるくらい感動するという出来事がありました。「ああ、これが音楽の力なんだ……」と、改めて実感できた瞬間でした。それぞれの教会で、そのような体験を重ね、たくさんの方々と一期一会の時間を存分に味わい、心を響かせ合うことができた幸せは、何にも代えることのできない素晴らしい経験となりました。これからもより良い音楽家を目指して、更なる研鑽を積んでいきたいと思っております。

ご来場くださった皆さま、私たちを迎えてくださった教会の方々、この素晴らしい機会を与えてくださったJELAの皆様、そしていつも美しい音色で演奏を支えてくれるピアニスト圓井晶子さんに、深く感謝いたします。



<圓井晶子さん(ピアノ)より>

全国9教会におきまして演奏をさせていただきましたチャリティーコンサート、私にとって心に深く刻み込まれたかけがえのない経験でした。教会という崇高で静寂な空間の中で音楽を奏でることのできる幸せを全身で感じ、聴きにいらして下さった方々と音楽を通して一体になれたような、今までに味わったことのない程のこの上ない喜びと充実感を覚えました。形のない「音」は時と共にやがて消えて



でものですが、その消えゆく一瞬を名残 惜しむように、この音楽と一つ一つの 「音」に込めた私達の気持ちも一緒に皆 様にどうか届きますように……という気 持ちで、祈りと感謝の気持ちを込めて1曲 1曲を演奏させていただきました。本当に 最後まで真剣に演奏を聴いて下さったこ とに感謝の気持ちでいっぱいです。有り 難うございます。

牧師様をはじめ、演奏後に皆様とゆっくりお話をさせていただいたりと、温かい交流をもつことができたことも私にとって本当に嬉しい時間でした。最後になりましたが、この度のチャリティーコンサートに出演をさせていただき、始終同行をして下さいましたJELAの方々、そして、真摯でとっても魅力的なフルーティストの上野由恵さん、本当に有り難うございました。(♪)



(5)

ひろがるリラ・プレカリアの働き

リラ・プレカリア (祈りのたて琴) 研修 講座1期、2期の修了生が、ホスピスその 他の施設で奉仕活動を展開されている一 方、この 4 月からは 3 期生が JELA ミッ ションセンターで学んでいます。講座期間 が従来の1年半から2年間に延長され、 ますます充実したプログラムになりつつあ ります。今回は、2期生と3期生からお一 人ずつに近況をご報告いただきます。

不思議の国リラ・プレカリアに駆出す 2期修了生・矢野和江



昨秋、リラ・プレ カリアの研修講座を 修了し、今年の3月 から東京都下のホス ピスとホームで调 1

回の奉仕を始めました。これまで延べ 30 人余の患者さんを訪問しましたが、そのた びに小さな奇跡を経験し、患者さんとの出 会いに祝福を受け、清清しい気分で帰宅 するという、想定外のできごとに驚きっぱ なしです。その経験の一端をお伝えします。

居る一

始める前は、死に逝く人を前に動揺した り、自分の感情を投影したりして疲れるの ではないかと恐れていたのですが、実際は 違っていました。私は患者さんの情報をほ とんど持たないでベッドサイドに座ります。 部屋に入る前に知らされるのは、せいぜい 名前と年齢、簡単な病状だけ。その患者さ んの過去の肩書きも、どんな仕事をしてき たのかも、ましてその人がどのような人生 を送ってきたかなどは一切知りません。余 計な情報は持たず、ただひたすら今そこに 泣く一 存在する人とともに居るということに集中 する。しかも、お会いするのはほぼ一回限 り。普段の生活ではほとんどない経験です。

与える一

考えてみると、患者さんも私のことを知 りません。死を間近にしてもっとも弱ってい る無防備な人が、どこの誰かも知らない私 をその傍らに迎え入れてくださる。さらに音 楽を聴いてくださり、受け入れてくださるの です。最後に必ず「聴いてくださってありが とうございます」と礼を言うのですが、これ は決まり文句ではありません。本当にとて も有り難い。赤の他人に最後まで生きる姿 を見せてくれる患者さんたちのなんという 気前のよさ! 私がではなく、患者さんた ちが私に惜しみなく与えてくれるのです。 何かをしてあげるなどという考えはさっさ と捨てました。

聞こえる―

眠っている人や意識のない人でも「聞こ えている。ことには、実践をとおしてますま す確信を深めています。たとえばAさん。初 めて訪問したとき、ちょうど入浴後だった こともあり、すっかり寝入っていました。し ばらくハープを弾いていると、確かに眠っ ているはずのAさんが、「聴いている」とし か思えない表情を見せるのです。終了後、 申し訳なさそうにAさんを起こそうとする娘 さんに、「どうぞそのままで」と申し上げ、A さんに聴いてくださったことへのお礼を 言って退室しました。

翌週、もう一度Aさんを訪ねるチャンス がありました。1週間前にも来たことを告 げ、「眠っていらしたけれど、聞こえていたよ うにお見受けしました」と言うと、気管切開 でもはや声を発せられないAさんが、こくり と肯かれた。さらには娘さんが「父は寝て いたくせに、『いや、聞こえていた』って言い 張るんですよ」とスタッフに語ったことも後 で知らされました。

すでに意識のない患者さんも多いので すが、それでも、皆さんがハープと歌を聴 いていてくださることはその反応からわか ります。「意識がない」という言葉は多分、 医学上の定義であって、それは単にモニ ターに映し出された特定の状態を指すの では、と思うほどです。

リラの活動をとおしてよく経験すること のひとつに、患者さんが涙を流す、あるい は声を出して泣くことがあります。泣くこと を恥ずかしく思い、人前では泣かないよう にしっかりと感情に蓋をした人さえ、ハー プの素朴な音が心の奥深くに触れると、そ の閉じられた心が思わず開いてしまうよう です。涙の浄化作用によって、「なんだか死 ぬことは恐くはないような気がした」と言っ た患者さんもいました。

また、泣くのは患者さんだけではありま せん。往々にしてご家族も泣かれます。患 者さんもご家族も張り詰めた毎日を送って おられるのだから無理もありません。

祈る一

このように感情を揺さぶる力は、リラ・プ レカリアが使う音楽、とくにテゼとグレゴリ オ聖歌に宿っている気がします。そこには 脈々と受け継がれた霊性が宿っていて、そ れが患者さんたちの魂の旅を導いてくれて いると強く感じます。弾く私も祈りを込めま すが、どうやら古くから受け継がれた音楽 そのものがハープの音色と相俟って、「祈 り」となって患者さんたちの魂に触れるよう です。これがリラ・プレカリア、「祈りのたて 琴」の所以でしょう。

わずか20~30分の訪問でありながら、 その間、病室が魔法をかけられたような空 間に変わる。こう書くとなんだか私が素晴し い技能を持っているように聞こえそうです が、それがまったく逆なのです。同期生がよ く知っているように、私のハープの腕も、壊 れた尺八のような声も、決して人を感動さ せるようなものではありません。

ですから、明らかに私を超えた力が、私 の奏でるハープと歌に働いて、患者さんを 異なる次元へと導いているとしか思えませ ん。奇跡と呼びたいくらいです。そして奇跡 の受益者は患者さんでもありますが、実は 誰よりも私なのだと気づくのです。

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)との い会出

3期受講生・横山恭子



私とリラ・プレカリア講座との出会いを改 めて思い起こしてみると、とても不思議なこ とのように思われてなりません。

○求めていたものとの出会い 私は宮城県仙台市に住んでいますが、 2009年10月31日の地元新聞に掲載され た「西洋版送り人」という記事を読んだこと が出会いの始まりでした。記事にはハープ を演奏している女性の写真とそれを聞いて いるアルツハイマーの女性と家族の姿が 写っていて、ハープで最期に寄り添うという 副題が書いてあり、読み進むに従い私はそ の記事の中に吸いこまれていきました。

記事に出てきた「音楽サナトロジスト」は 初めて耳にする言葉でした。サナトロジー とは死の在り方を探る「死生学」、それを音 楽で実践するのが音楽サナトロジストで、 音楽、とくにハープや歌声を通じ、末期患 者や回復の見込みのない人々、そして近親 者に心の安らぎを与えるのが使命である、 とあり私のしたかったことは「これだ!」と思 い感動で心が震えました。

1970年代前半、米コロラド州で音楽サ ナトロジストの育成プロジェクトを発足さ せたテレーズ・シュローダー・シーカーとい う方の名前をインターネットで検索したと ころ、リラ・プレカリアヘヒットして、キャロ ル・サック先生を調べていくうちに、日本福 音ルーテル社団(JELA)のリラ・プレカリア 研修講座へ辿りつくことができました。する と11月に第3期研修講座の説明会がある ことが分かり、仕事を休んで聞きにいった のですが、1期生によるハープと歌の実演 や説明を聞けば聞くほど、私の求めていた 学びはこれだ! という確信を持って仙台 に戻りました。

○音楽の力

それまで私はクラシック・ギターを演奏し ており、様々な場所でコンサートをしていま したが、一年半ほど前から仙台市にあるス ペルマン病院のホスピス病棟で末期の患 者さんのために演奏する機会を神様が与 えて下さり、音楽を通して神様のご愛と祈 りを患者さんにお伝えしたいと思い、隔週 二回通っていました。

ある日、大変苦しそうな顔でベッドに横 たわっておられる患者さんの枕元で演奏さ せていただいたのですが、このような所で 演奏するのに慣れていない私は、眉間にし わをよせ目を閉じたままで苦しそうな患者 さんの表情を見ながらドキドキして挨拶を した後、心の中で神様に必死で祈りながら 2曲ほど演奏しました。

演奏が終わり「また、演奏に来ますね。あ りがとうございました」と言いながら患者さ んの顔をもう一度見たのですが、なんと、さ きほどの苦しそうな表情は消えて、とてもお だやかなお顔をされているのです。

私はびっくりして「これは私の力ではな い、神様が働いてくださったのだ」と心から 思い、涙がこぼれそうになりました。患者さ んの人生の最期を締めくくる大切な場面に 自分が寄り添わせていただいたことを神様 に感謝しました。

パストラル・ケアワーカーの山田さんが 一緒にそばで見守って下さっていました が、病室を出てから私に「横山さん、わかっ たでしょう。音楽の力はすごいと思いません か」と言われたのです。改めて楽器を演奏 することの意味と責任を考えさせられた時 でした。

○リラ・プレカリアに導かれて

それからもたくさんの患者さんとの出会 いがありましたが、一年ほど経過した頃、患 者さんに聞いていただく曲の選択や曲のテ ンポ、和音の使い方など何が一番良いの か悩むことが多く、どこかで学びが出来る 所があったら患者さんにもっと適した演奏 をしてさしあげることが出来るのにと思って いました。そのような思いでいた時に神様 はリラ・プレカリアの講座と出会わせて下 さったのです。

入学案内を送ってもらい説明を読み進 むにつれ、仙台から新幹線で通学するため の費用や時間が準備できるのだろうかとい う思いにとらわれました。どう考えても私の 今の状況を見ると、まったく不可能と思え ることばかりが目の前に立ちはだかってい ました。神様に何度もどうしたら良いか教え て下さいと祈り、私の所属している仙台聖 書バプテスト教会の鈴木牧師にもいきさつ をお話しして祈っていただきました。

心から求めていた学びでしたから何とか して神様が道を開いて下さるようにと祈っ ておりましたが、聖書のヨシュア記にあるよ うに、遂にヨルダン川の水は堰きをなして 立ち、道が現れて私は神様の不思議な方 法でリラ・プレカリアの講座へ入学し、第一 歩を4月12日に踏み出すことが出来たので

仙台聖書バプテスト教会の兄弟姉妹の 祈りと献金に支えていただきながら、まもな く一学期を終えようとしています。4月から 学ばせていただいて感じたことは、リラ・プ レカリアの学びは現代の殺伐とした砂漠の ような世の中に生きる人々に希望を与え、 苦しんでおられる方を祈りによっていのち の泉に招くための尊い学びではないかとい うことです。

私が初めに「これだ!」と感じたものがり ラ・プレカリアの学びの中にあるという手応 えを確かに感じた一学期でした。



第3期開講式。ハープを奏でているのは、お祝いに駆 けつけてくれたレベッカ・フラナリーさん

2010年度「リラ・プレカリア 公開講座」のご案内

場 所:恵比寿ジェラ・ミッションセンター 時 間:午前10時30分~12時

入場料:1.000円 ※事前のお申込みは 不要です。

※遠方やお仕事の都合で来られない方々のために 講座をDVDにして販売しております。ご希望の方は 事務局(中島)までご連絡ください。

これからの予定:

■9月16日 「詩編入門」

講師:大柴譲治(日本福音ルーテルむさし の教会牧師)

■10月7日 「ベネディクトウスの『戒律』と 聖なる読書」

講師:矢内義顕(早稲田大学教授)

■10月14日 「行き場を失った家なき人 のホスピス「きぼうのいえ」の終末ケアとそ の思想」

講師:山本雅基(ホスピスケア施設「きぼう のいえ 施設長)

■10月21日 「なぜ『私』にこんなことが 起こるのか」と問う人々へのケア-不条理 を考える」

講師:賀来周一(キリスト教カウンセリング センター相談所長)

■10月28日 「詩編23」

講師:柴田千頭男(ルーテル学院大学名 誉教授)

■11月11日 「詩編とルターと音楽と」 講師:徳善義和(ルーテル学院大学名誉 教授)

お問い合わせ: 日本福音ルーテル社団 (JELA)事務局

〒150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26 TEL:03-3447-1521 E-mail: jela@jela.or.jp

HP: http://www.jela.or.jp/

JELA歴史コラム その8 「神の知恵と人の知恵」



JELA常務理事 長尾博吉

1989 年米国において、American Lutheran Church & Lutheran Church in American が 合 同 し、 Evangelical Lutheran Church in America がシカゴに誕生しました。最初 のアジア担当の主事は、スウェンサイド師 でしたが、ELCA の財政は合同による組 織の肥大化によって大変厳しくなり、更に は世界経済における為替変動(円高ドル 安)によって、特に日本宣教における資金 不足が発生しました。そこで、スウェンサイ ド師は米国教会から日本の教会への土 地建物支援金を、プロジェクト方式から 定額支援方式に切り替えられました。こ れ迄、日本の各個教会から教区・本教 会を通して出されたプロジェクトの内容を 吟味して支援がなされていたのが、プロ ジェクト一律に支援金は一定額以下とす ることに変わったわけです。

即ち、一プロジェクトの支援対象額は一億円以内、支援金はその三分の二、一億円を超える額はすべて当該教会の自己負担とするということになりました。当初その支援金額は一件五千万円でしたが、年を経るごとに四千万、三千万、二千万と減額されました。しかも、それらの支援金も米国教会からの送金ではなく、JELAの不動産売却益で賄われるようになりました。それだけ米国教会の財政自体が厳しい状態に見舞われていたということでしょう。

1992 年にアジア担当主事がスウェンサイド師からフレンチ師に代わると同時に、米国教会の財政合理化の波は日本の宣教態勢を大きく揺さぶりました。当時JELA が管理していた宣教資産を JELCに寄付移管し、JELCの運用責任のもとその範囲内において、宣教師による宣教活動を継続するというものでした。

ところが、時を経ずしてフレンチ師が辞任した為、結果的には、このフレンチ提案は DGM 自体の反対もあって、すべてが立ち消えてしまいました。この提案は

DGM の提案ではなくフレンチ師個人の 提案にすぎなかったということでした。

しかし、92 年以降約5年間 JELA は日本における宣教師による宣教の在り方を巡って、主に宣教師ハンドブックの改定作業に多くの時間と労力を消費しましたが、人の考えることは、時宜(神様の聖心)に適わない限り現実をみることはないのです。人の知恵は有用です。けれども人の知恵には限界があり、神の知恵を超えるものではありません。

ギデオンが圧倒的兵力のミデアン人の 部隊と対峙した時、イスラエルの民を鼓 舞し兵を募ったところ数万の兵力が与え られました。しかし、主はその兵力を数百 人単位に削減するよう警告されました。 人の知恵と力で一度は数万の兵力を与 えられましたが、それを捨てた結果、神の 知恵によって数百のギデオンの精鋭が数 万のミデアン人の兵力に勝利したので す。人の立てた宣教方策は、ときとして失敗 することがありますが、神の立てられた宣教 方策は確実に執行せられ、確実に実現され るのです。JELA の将来は人の知恵でなく、 神の知恵、主の聖手にゆだねましょう。

お知らせ

2011年インド・ワークキャンプ参加者募集!

以下の要領で参加者を募集します。ご興味のある方はふるってご応募ください。募集期間は9月1日~11月1日です。

- ■派遣期間:2011年2月15日(火)~25日(金)
- ■内 容:義足作り、家作り等
- ■対 象:18歳以上の方
- ■募集人数:10名程度(人数調整のための選考があります)
- ■参加費:自己負担18万円 ※パスポート申請、海外旅行保険、予防接種の費用は個人負担となります。
- ■問合せ:

JELA+JELCボランティア派遣委員会 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-1

JELC宣教室気付 電話:03-3260-1908 FAX:03-3260-1948

E-mail:workcamp@jelc.or.jp

義足作りとは、アルミの板をハンマーで叩いて延ばしながら下肢の形に整えて、右の写真のように作る作業です。



支援者一覧

(2010年2月1日~5月31日)

安藤淑子/石崎勝/石原勇・登志子/泉真琴/ 泉洋子/伊藤勲/伊藤シズエ/今村芙美子/上 窪松子/上原文子/宇五十鈴/江澤妙子/大中 真理/太田滋子/大谷忠雄・妙子/大谷偕子/ 岡部瑞子/兼岩恵美子/京谷信代/小林商事株 式会社/日本福音ルーテル釧路教会/倉重ミドリ / 倉知延章/小菅裕司·可代/佐藤義雄/佐野 正子/静岡英和学院/島崎征一/鈴木恭子/鈴 木やす/聖望学園/関淑子/高橋要子/高田紀 子/高津和子/田尻純久/玉名教会/田山かほ る/綱春子/中村孝治・敬子/中村雍子/名古 屋めぐみ教会/西平薫/株式会社西村建築設計 事務所/野村證券株式会社/平島徳蔵/飯能 ルーテル教会/早瀬康平/平林洋子/渕田康穂 /藤原知彦/古川知代子/古庄理世/本郷学生 センター/益永和代/松隈貞雄/南節子/宗方 美代子/森田雅子/森保宏/山際喜佐夫/山口

敏子/山県順子/山本一男/山本了/横山恭子/有限会社リフォーム・イケ/若原奇美子/Patrick Bencke/他匿名複数

以上、敬称略。ご支援ありがとうございます。 匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下

編集後記

5 月のチャリティコンサートで神戸に出張した 際、生まれ故郷の大阪に立ち寄り、JR 千里丘 駅から阪急山田駅までゆっくり歩いてみまし た。幼い頃に通った幼稚園や小学校の懐かし かったこと! 不審者と思われたのか施設内 には入れてもらえませんでしたが、外から眺め るだけで十分満足でした。村祭りの時に金魚 すくいや輪投げに興じた神社の境内、補助輪 つきの自転車なのにバランスをくずして落ちた 田んぼ……、小学校への通学路を確認しなが ら想い出にひたりました。そして、平和な子ども 時代を過ごせたことに感謝しました。一方で、 戦争や内乱、あるいは極度の貧困環境での生 活を余儀なくされているため、「想い出」らしき ものを持たない子どもや人々に思いが及びま した。チャリティコンサートへの寄付金によっ て、このような世界の人々に物質的・精神的 な糧を与えることができれば、とても有意義な ことだと思います。(M)

